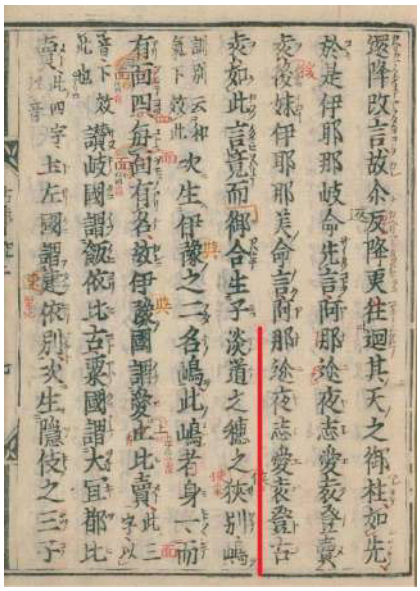
① 申請者	◎淡路市、洲本市、南あわじ市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E

③ タイトル

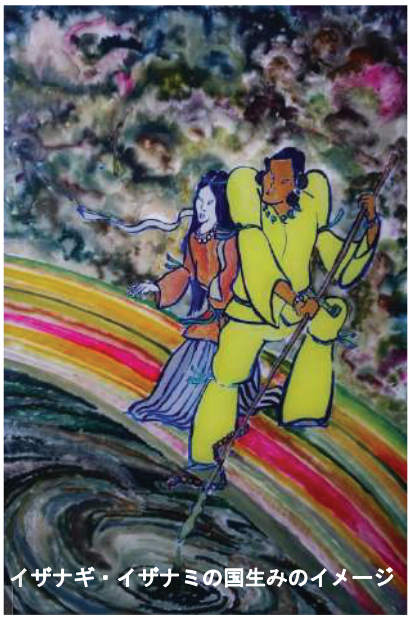
『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」　～古代国家を支えた海人（あま）の営み～

④ ストーリーの概要（２００字程度）

わが国最古の歴史書『古事記』の冒頭を飾る「国生み神話」。この壮大な天地創造の神話の中で最初に誕生する“特別な島”が淡路島である。その背景には、新たな時代の幕開けを告げる金属器文化をもたらし、後に塩づくりや巧みな航海術で畿内の王権や都の暮らしを支えた“海人（あま）”と呼ばれる海の民の存在があった。畿内の前面に浮かぶ瀬戸内最大の島は、古代国家形成期の中枢を支えた“海人（あま）”の歴史を今に伝える島である。



『淡路之穂之侠別之嶋』として、日本列島の中で最初に生まれた島が淡路島であることを記した『古事記』



イザナギ・イザナミの国生みのイメージ

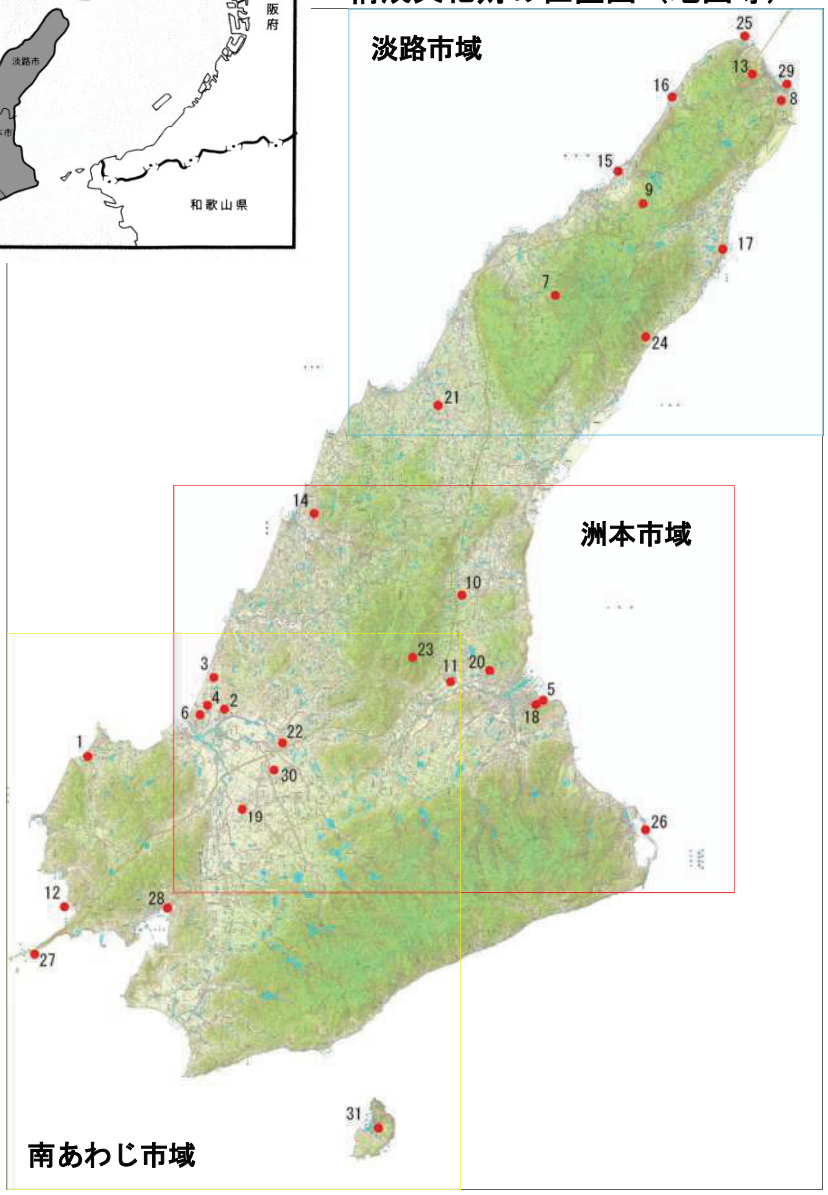
海人の塩づくりのイメージ

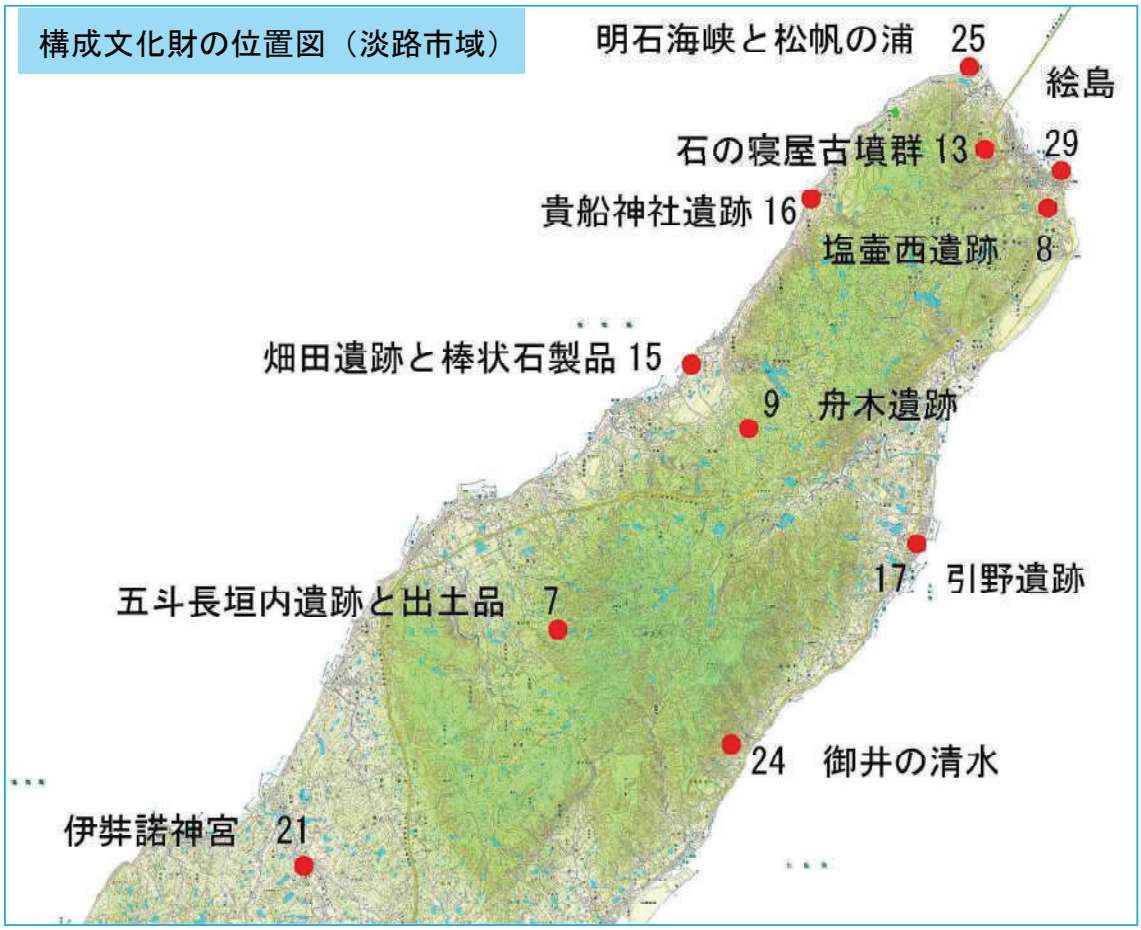
鳴門の渦潮

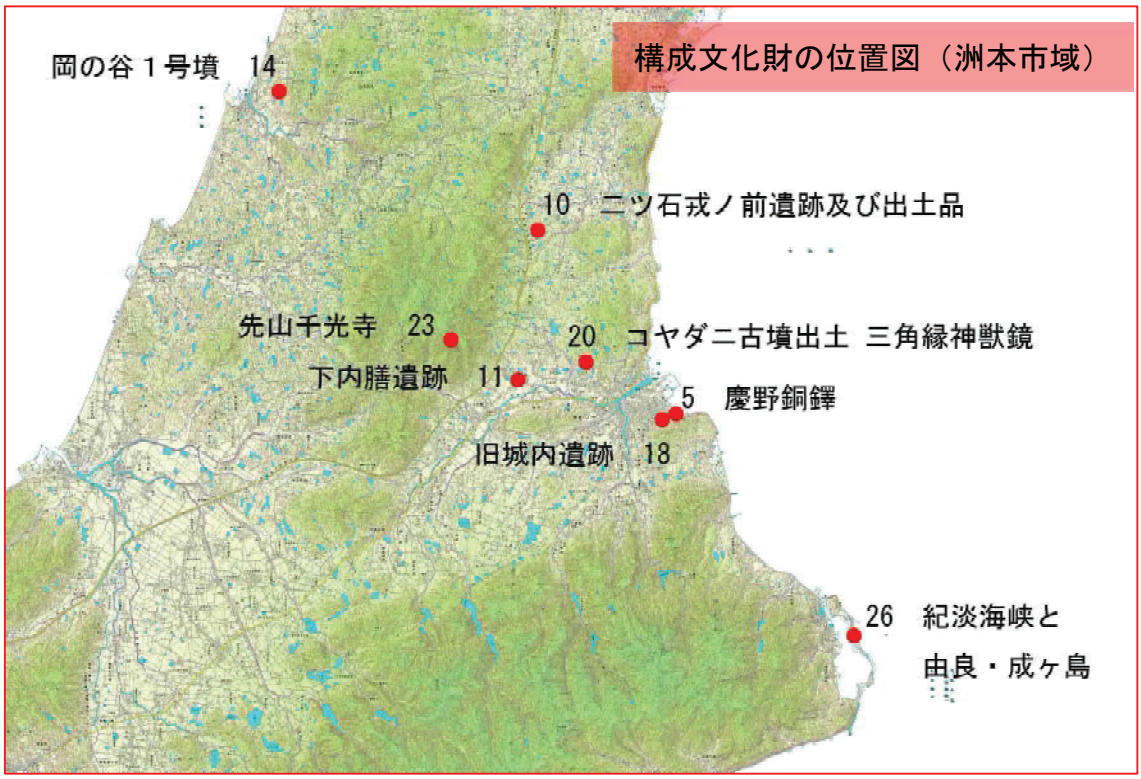
イザナギ･イザナミの二柱の神様が天の沼矛で下界をかき回し、塩の雫が固まって「おのころ島」ができる描写は、海人が生業とした塩づくりの過程で製塩土器の中の海水を撹拌し、結晶塩ができる様子に重ね合わせられる。また、天の沼矛でかき回すことによって下界が渦巻く描写は、海人が活躍した鳴門海峡の巨大な渦潮と重なる。

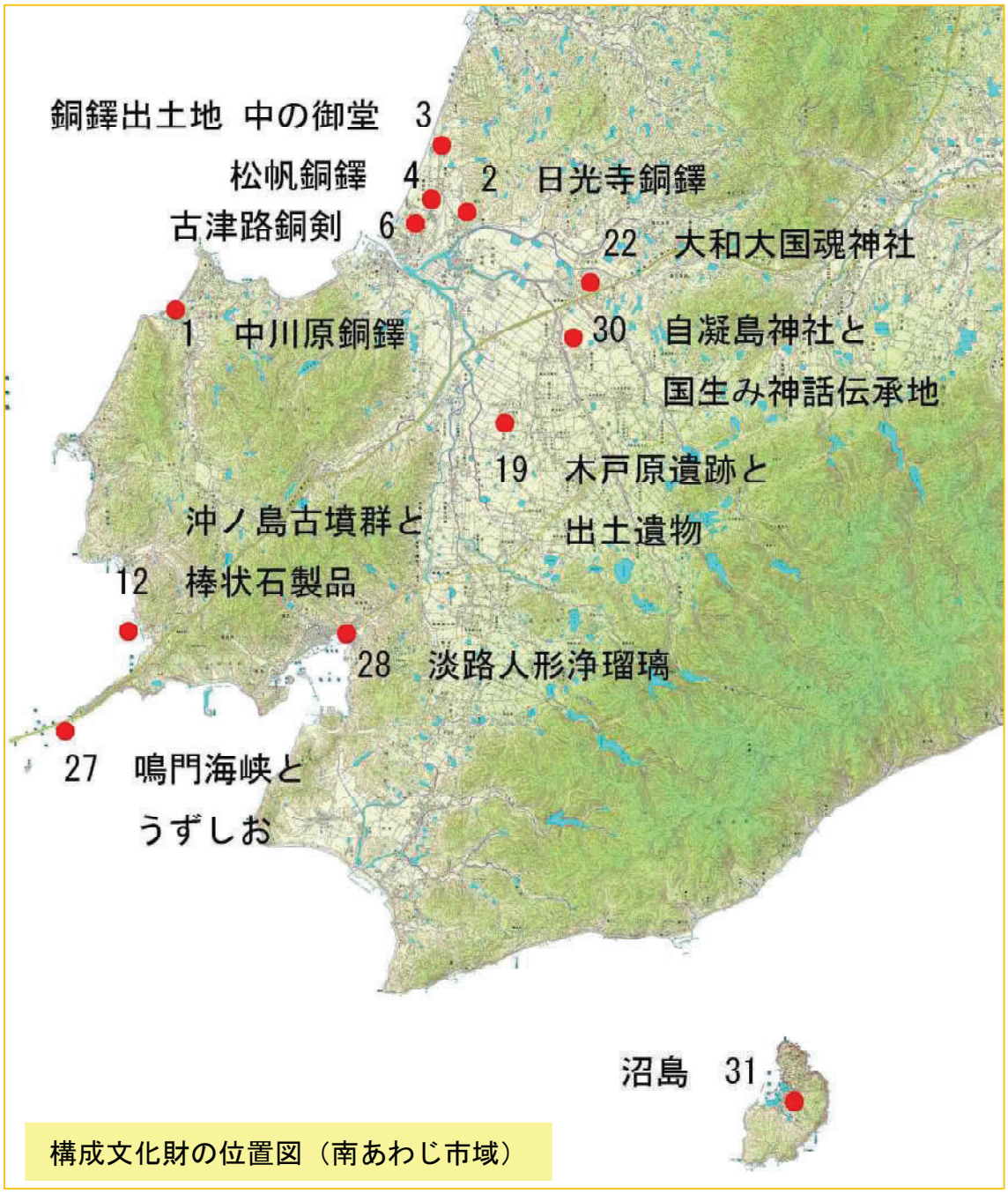
市町村の位置図（地図等）

構成文化財の位置図（地図等）




構成文化財の位置図（淡路市域）
明石海峡と松帆の浦　25
絵島
石の寝屋古墳群 13
29
貴船神社遺跡 16
塩壷西遺跡　8
畑田遺跡と棒状石製品 15
9　舟木遺跡
17　引野遺跡
五斗長垣内遺跡と出土品　7
24　御井の清水
伊弉諾神宮　21

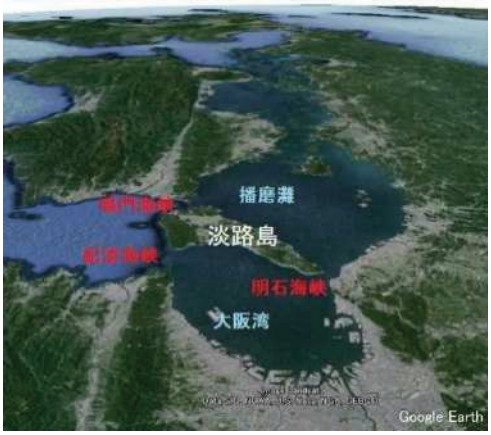

構成文化財の位置図（洲本市域）
岡の谷１号墳　14
10　二ツ石戎ノ前遺跡及び出土品
先山千光寺　23
20　コヤダニ古墳出土　三角縁神獣鏡
下内膳遺跡　11
5　慶野銅鐸
旧城内遺跡　18
26　紀淡海峡と
由良・成ヶ島



構成文化財の位置図（南あわじ市域）

ストーリー

現存するわが国最古の歴史書『古事記』に描かれた「神話の世界」。そこには「国生み」「天岩戸」「八俣遠呂智」「大國主命」など、日本人ならだれもが一度は耳にした神話が並ぶ。それは、古代日本人の宇宙観や世界観を背景に、天地が形づくられ国家が誕生する過程を、幾多の神々の姿になぞらえ描いた壮大な天地創造の物語である。その冒頭を飾るのが「国生み神話」。イザナギ・イザナミの二柱の神様が、生まれたばかりの混沌とした大地を天沼矛で塩コオロコオロとかきまわし、矛先から滴り落ちた塩の雫が凝り固まった「おのころ島」で夫婦となって日本列島の島々を生んでいく。その中で、最初に生まれた“特別な島”が淡路島である。



畿内の上空から見た淡路島の位置

その背景には、大陸や朝鮮半島と畿内を結ぶ大動脈“瀬戸内の海”の東端で、畿内の前面に横たわる瀬戸内“最大の島”として、古代国家形成期に重要な役割を果たした“海の民”の歴史があった。それは、古代国家成立の原点ともいえる紀元前の弥生時代に始まる。

■ 金属器時代の始まり　～ 先端文化をもたらした“海の民”～

稲作の本格化とともに社会構造の大変革が始まる弥生時代は、金属器時代の幕開けでもある。淡路島では、紀元前に製作された古式の青銅器である 21 個の銅鐸と 14 本の銅剣が発見されている。日本最古段階の中川原銅鐸をはじめ、これまでに例の無い７個全てに舌を伴う松帆銅鐸、14 本がまとまって出土した古津路銅剣など、その多くが海岸部で発見されている。播磨灘を臨む海岸地帯を神聖な場所として埋納するあり方は、新たな時代の祀りに海の民が携わったことを想像させる。

7個全てに舌が伴う松帆銅鐸

この島の姿は、紀元前後を境に劇的な変化を迎える。青銅器文化が栄えた平野の集落に取って代わるかのように出現する山間地の集落。そこでは、弥生社会に大きな変革をもたらした鉄器文化が畿内中心部に先駆けて受容されていた。1 世紀に鉄器生産を開始した五斗長垣内遺跡では、その後 100 年以上継続した鍛冶のムラや朝鮮半島からもたらされた鉄斧が、海の民によって伝えられた先端技術の定着を物語る。また、二ツ石戎ノ前遺跡では、鳴門海峡を渡って運ばれた四国徳島産の辰砂を原料とする朱の精製を行った工房も発見されている。これらの最盛期はいずれも邪馬台国の女王「卑弥呼」が登場する直前の時代である。島北部の山間地集落で生産された鉄や朱は、後に大王が求めた重要な物資となるものであり、「倭国大乱」の謎を解く鍵となる可能性を秘めている。

朱を生産した二ツ石戎ノ前遺跡の石杵

五斗長垣内遺跡の弥生鍛冶体験

■ 大王の時代　～ 塩と航海術で王権を支えた淡路島の“海人”　～

前方後円墳に葬られた大王が出現する時代の淡路島。そこには『日本書紀』に登場する“海人”と呼ばれた海の民の活躍があった。応神天皇の妃を吉備に送る船の漕ぎ手として集められた「御原の海人」や仁徳天皇即位前に朝鮮半島に派遣された「淡路の海人」など、優れた航海術をもって王権を支えた海人

の姿が描かれる。また、履中天皇即位前に安曇連浜子に率いられて軍事行動を起こした「野嶋の海人」。彼らの姿には、安曇氏に率いられた水軍としての性格も読み取れる。これらは、『日本書紀』の中に数多く登場し、王権と深い関わりを持つ淡路島の姿や、今も島に残る「御原」や「野島」の地名から、淡路島を拠点とした海人と考えられている。

島全体を墓域とする沖ノ島古墳群

海人の活動の跡は、島内各地の遺跡にみることができる。紀元前後に出現した山間地集落が急速に姿を消すとともに海岸部で始まる塩づくり。島の土器製塩は３世紀に本格化する。その後、５世紀に熱効率の良い丸底式の製塩土器を生みだした引野遺跡、６世紀には炉底に石を敷き詰めて熱効率の向上を図った石敷炉を導入した貴船神社遺跡など、島内各地の製塩遺跡で作業時間を短縮し、大量生産を目指した塩づくりの進化の跡をみることができる。製塩技術の革新によって大量生産された塩は、島内での消費にとどまらず、畿内の王権にも供給されたと考えられる。

整備された貴船神社遺跡

大量の鏡や鉄器を副葬し、巨大な石室を築く古墳が造営された時代。島にも三角縁神獣鏡を受領したコヤダニ古墳が存在する。その中で、鳴門海峡を望む小島全体を墓域として小規模な石室を多数築き、漁具を中心に副葬した沖ノ島古墳群は、激しい潮流の海峡を生業の場とした海人が眠る古墳である。

塩の生産術に長け、巧みな航海術を持った淡路島の海人は、列島を統治する王権にとって必要不可欠な存在となっていた。

コヤダニ古墳の三角縁神獣鏡

■　都を支えた「御食国」～ 万葉集に詠まれた律令時代の“海人”　～

「・・淡路島 松帆の浦に 朝なぎに 玉藻刈りつつ 夕なぎに 藻塩焼きつつ 海をとめ・・」と『万葉集』に詠まれた歌からは、奈良時代に受け継がれた海人の塩づくりを知ることができる。朝廷の儀式である月次祭の神今食の塩が「淡路の塩」と定められていたとする『延喜式』の記録は、淡路の塩が特別に用いられたことを伝える。塩の他にも、淡路島の海人が生産する多くの海の幸が都に運ばれ、天皇の食膳を司る「御食国」として、山部赤人に詠われた島の姿を生みだした。ここにも淡路島の海人と朝廷との関係の深さが窺える。

「御食国」を今に伝える島の食材

奈良時代に編纂された『古事記』は、稗田阿礼が暗誦した『帝紀』『旧辞』をもとに、それまでの歴史を振り返り、太安万侶が書き記したものである。古代国家形成期に果たした役割の重要さによって淡路島は、『古事記』の冒頭を飾る「国生み神話」の中で、最初に生まれる“特別な島”として描くことが必要となったのである。

■　今に息づく「国生みの島」　～ 今日にみる“海人”の足跡 ～

『古事記』編纂に際して評価された海の民の歴史は、その後二千年を超える島の暮らしの中で幾度となく振り返られ、その都度、島人のよりどころとなって新たな文化を創造してきた。海人と呼ばれることとなる海の民の足跡は、貴重な遺跡や多様な文化遺産として良好な姿で今も島に残り、多くの万葉歌人に詠まれた美しい風景は景勝地としての今の島に受け継がれ、「御食国」としての歴史を刻んだ島は今も豊かな食材に恵まれた島でありつづけている。淡路島は、古代国家形成期の中枢を支えた“海人”の歴史を今に伝える島である。

（別紙様式３－１）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称（※１）	指定等の状況（※２）	ストーリーの中の位置づけ（※３）	文化財の所在地（※４）
1	中川原銅鐸（なかがわらどうたく）	国重文	金属器時代の始まりを告げるわが国内最古段階の菱環鈕(りょうかんちゅう)式銅鐸の一つ。古式の銅鐸ばかりが発見されている淡路島の銅鐸を象徴する。	南あわじ市
2	日光寺銅鐸（にっこうじどうたく）	国重文	淡路島の銅鐸の特徴である舌を伴う希少な銅鐸。播磨灘を臨む慶野（けいの）村から出土した銅鐸の一つで、弥生時代の新たな祀りに海の民が携わったことを想像させる。	南あわじ市
3	銅鐸出土地　中の御堂（どうたくしゅつどち　なか　みどう）	県史跡	日光寺銅鐸の出土地。日光寺に伝わる古文書「宝鐸御届写」には、「貞享３年(1686)の出水により、播磨灘を臨む海岸部で８個の銅鐸が出土した」と記されている。銅鐸祭祀に海の民が携わったことを想像させる遺跡。	南あわじ市
4	松帆銅鐸（まつほどうたく）	未指定	平成 27 年(2015)４月、松帆地区から採取された土砂中より、７点発見された銅鐸。最古段階の菱環鈕(りょうかんちゅう)式１点のほか、６点全てが紀元前に製作された古式の銅鐸。２組４点が入れ子状態で発見されたほか、全てに舌(ぜつ)を伴うなど、他に例をみない埋納例である。播磨灘を臨む海岸地帯での埋納が予想されることから、弥生時代の新たな祀りに海の民が携わったことを想定させる銅鐸。	南あわじ市
5	慶野銅鐸（けいのどうたく）	国重文	播磨灘を臨む海岸地帯で出土した外縁付鈕(がいえんつきちゅう)式銅鐸の一つ。弥生時代の銅鐸祭祀に海の民が携わったことを想定させる銅鐸。	洲本市
6	古津路銅剣（こつろどうけん）	県有形	多数の銅鐸が発見されている播磨灘を臨む慶野松原近くの古津路遺跡から発見された 14 本の銅剣。多くの銅鐸とともに海岸部近くに埋納された青銅器。弥生時代の青銅器祭祀に海の民が携わったことを想像させる銅剣。	国立歴史民俗博物館 兵庫県立考古博物館 （南あわじ市）
7	五斗長垣内遺跡と出土品（ごっさかいといせき）	国史跡	弥生時代後期に急増する山間地集落の一つ。金属器時代の幕開けを告げる弥生時代にあって、古代国家成立に重要な役割を果たした鉄器文化を、畿内中枢部に先駆けて受容したことを知る遺跡。大規模な工房建物や多数の鉄器が出土。紀元１世紀から始まる鉄器生産が 100 年以上も継続した。工房建物から発見された朝鮮半島製の板状鉄斧などから、瀬戸内の海を介して海の民が伝えた鉄器文化の定着を見ることができる。	淡路市

7		県有形	上記の鉄器生産を実証する出土遺物。生産された鉄器や鉄素材のほか石製工具類などは、瀬戸内の海を介して海の民が関わった先端技術と重要物資の生産や流通の様子を示す。	淡路市
8	塩壺西遺跡（しおつぼにしいせき）	未指定	弥生時代後期に明石海峡を見下ろす山の上に営まれた集落跡。大型の鉄鏃を持ち、狼煙（のろし）をあげた跡が発見されている。瀬戸内から畿内に向う海上航路の要衝である明石海峡を見張ったと考えられる遺跡。	淡路市 兵庫県立考古博物館
9	舟木遺跡（ふなきいせき）	未指定	畿内に先駆けて鉄器文化を受容した島北部の弥生時代山間地集落の一つ。40haにも及ぶ広大な面積や大型建物跡の発見から、その中心的役割が想定される。出土している製塩土器やイイダコ壺などから、山間地集落と海の民との関係を知ることができる。	淡路市
10	二ツ石戎ノ前遺跡（ふたついしえびすのまえ） 及び出土品	未指定	弥生時代後期に急増する山間地集落の一つ。四国徳島県産の辰砂(しんしゃ)を原材料とした朱の精製を行った工房跡と使用した工具類が発見されている。鳴門海峡を渡って原材料を運び、時代の鍵となる重要物資の生産と流通に携わった海の民の活動を見ることができる。	洲本市 兵庫県立考古博物館
11	下内膳遺跡（しもないぜんいせき）	未指定	淡路島中央部に位置する弥生時代の拠点集落。河内や紀伊の土器が出土。大阪湾を介して交流する海の民の存在が窺える。	洲本市 兵庫県立考古博物館
12	沖ノ島古墳群（おきのしまこふんぐん）と 棒状石製品（ぼうじょうせきせいひん）	未指定	鳴門海峡を臨む小島全体を墓域とする古墳群。自然石を積み上げた小規模な石室を多数築き、漁具を中心とした副葬品を納めることから、海人(あま)の長が葬られたと考えられる。『日本書紀』に登場する「御原(みはら)の海人」の活躍を想像させる。 棒状石製品は沖の島古墳群の特徴ある副葬品。細い石棒を磨き上げ、両端をとがらせた特徴的な形態を示す。沼島以外の淡路島内では産出しない緑泥片岩(りょくでいへんがん)を素材とすることから海を生業の場とした海人(あま)との関係が想定される。	南あわじ市
13	石の寝屋古墳群（いしねやこふんぐん）	未指定	明石海峡を一望する高台に築かれた古墳群で、海峡を舞台に活躍した海人(あま)の長が眠ると考えられる。『日本書紀』の允恭紀に記述がある海人の「男狭磯(おさし)」の古墳とする伝承も残る。	淡路市
14	岡の谷1号墳（おかのたにごうふん）	市史跡	石室内に納められた家形石棺は竜山石（凝灰岩製）が使用されている。高台に築かれた古墳から臨む播磨灘を隔てた対岸の播磨地域と、海を介した繋がりが窺える。	洲本市
15	畑田遺跡の棒状石製品（はただいせきぼうじょうせきせいひん）	未指定	淡路島最古段階の製塩土器が出土する遺跡。海人（あま）との関係が深い棒状石製品が出土している。	淡路市

16	きふねじんじゃいせき 貴船神社遺跡	未指定	海人(あま)が生業とした土器製塩を営んだ遺跡。淡路市野島に所在することから『日本書紀』に登場する「野嶋の海人(あま)」の活動拠点に比定される。熱効率の向上を図った石敷炉(いしじきろ)の使用によって大量生産を図った塩は、王権にも供されたものと考えられる。また、出土した新羅系の土器からは、朝鮮半島との関係を知ることができる。	淡路市
17	ひきのいせき 引野遺跡	未指定	海人(あま)が生業とした土器製塩を営んだ遺跡。脚台付きの製塩土器から熱効率の良い丸底式の製塩土器への進化を見ることができる。製塩土器の改良による塩の量産化によって王権を支えた塩づくりの始まりを見ることができる。	淡路市
18	きゅうじょうないいせき 旧城内遺跡	未指定	古墳時代の製塩遺跡。塩づくりの場を埋葬の場として選定した古墳が発見されている。自然石を組み合わせた小型の埋葬施設には、土器製塩に携わった海人（あま）の長が葬られたものと考えられる。	洲本市
19	きどはらいせき 木戸原遺跡と しゅつどいぶつ 出土遺物	未指定	一般集落ではめったに見ることが無い鉄器素材となる鉄挺(てってい)や韓式系土器（かんしきけいどき）が多数出土しており、半島との関係を見ることができる。倭の五王の時代に半島との往来を担った海人(あま)の航海術をみることができる遺跡及び遺物。	南あわじ市
20	こやだにこふんしゅつど コヤダニ古墳出土 さんかくぶちしんじゅうきょう 三角縁神獣鏡	未指定	古墳時代の首長の権威を象徴する淡路島で唯一の三角縁神獣鏡。海人(あま)が活躍した古墳時代に、王権とつながる淡路島の首長の存在を裏付ける貴重な遺物。	洲本市
21	いざなぎじんぐう 伊弉諾神宮	県有形	『記紀』の冒頭、「国生み神話」に登場する伊弉諾尊・伊弉冉尊の二柱を祀る淡路国一宮。『延喜式』神名帳では「名神大（みょうじんだい）」を、明治 18 年には官幣大社の社格を、また昭和 29 年には神宮號を宣下された格式高き神社。平成 16 年に社殿改修中に発見されたご神像９躯（県指定）はいずれも平安～鎌倉期のものであり、すべて伊弉冉尊を現した女神像であり、県下最古のご神像である。『古事記』『日本書紀』には国生みに始まるすべての神功を遂げられた伊弉諾尊が、最初にお生みになられた淡路島の多賀の地に「幽宮(かくりのみや)」を構えて余生を過ごされた、初めての「宮」と表記される日本最古の宮であり、境内は大神の神託の旧跡と伝えられている。	淡路市
22	やまとおおくにたまじんじゃ 大和大国魂神社	未指定	『日本書紀』に登場する御原(みはら)の海人(あま)を統率したと想定される大和氏ゆかりの神社。	南あわじ市

23	先山千光寺（せんざんせんこうじ）	未指定	イザナギ・イザナミの二柱の神が国生みの際に第一に出た山で「先山」と名付けられたとされる。天の岩戸に姿を隠した天照大神を祀る岩戸神社もある国生み神話ゆかりの地。	洲本市
24	御井の清水（おいのしみず）	未指定	『古事記』の仁徳紀にある「朝夕に淡路島の寒泉（しみず）を酌んで大御水（おおみもい）として献上した」清水の伝承の地。大阪湾を渡って御陵水を運ぶ海人（あま）の姿を想像させるとともに王権との関わりの深さを伝える。	淡路市
25	明石海峡と松帆の浦（あかしかいきょうとまつほのうら）	未指定	播磨灘と大阪湾を隔てる明石海峡は、潮流の激しさから瀬戸内の難所と呼ばれ、畿内へ向かう海上交通の要衝として、海人（あま）が活躍する場であった。その位置づけが『万葉集』に詠まれた塩づくりを営む海人（あま）の姿となった。今も変わらぬ潮流と多くの万葉歌人に詠まれた風景は海人（あま）が活躍した当時を偲ばせる。	淡路市
26	紀淡海峡と由良・成ヶ島（きたんかいきょうとゆらなるがしま）	未指定	瀬戸内の海上交通の要衝の一つ、紀淡海峡を掌握するための拠点。天然の良港としての由良は、古来より海上の交流・交易拠点としての役割を果たした。紀淡海峡における海人（あま）の活動拠点となったことが想像される。『記紀』にある天日槍（あめのひぼこ）の「出石の刀子」ゆかりの生石（おいし）神社もある。	洲本市
27	鳴門海峡とうずしお（なるとかいきょうとうずしお）	未指定	淡路と四国との間の幅約 1.3ｋｍの海峡に生じる世界最大の渦潮とそれを生み出す激しい潮流の鳴門海峡は、海人(あま)の巧みな航海術を必要とした海であった。イザナギ・イザナミの二柱の神が天の沼矛で下界をかき回し、渦巻く様子は、鳴門海峡の渦潮と重なる。	南あわじ市
28	淡路人形浄瑠璃（あわじにんぎょうじょうるり）	国無形	島を代表する伝統芸能「淡路人形浄瑠璃」は「国生み神話」ゆかりの「えびす舞」を起源とする。	南あわじ市
29	絵島（えしま）	市名勝	「国生み神話」に登場する「おのころ島」伝承地の一つ。海人（あま）が活躍した明石海峡を背景とし、長年にわたる風波によって描き出された造形美が「おのころ島」に見立てられたものと考えられる。	淡路市
30	自凝島神社と国生み神話伝承地（おのころじまとくにうみしんわでんしょうち）	未指定	「国生み神話」に登場する「おのころ島」ゆかりの自凝島（おのころじま）神社をはじめ、葦原国（あしはらこく）、天浮橋（あめのうきはし）などの神話伝承地。	南あわじ市
31	沼島（ぬしま）	未指定	「国生み神話」に登場する「おのころ島」伝承地の一つ。島の太平洋側に浮かぶ小島で、島に残る古墳や製塩遺跡、立神岩の信仰などに、大海に漕ぐ出す海の民の拠点であったことが想像される。「沼島」の「沼」は「国生み神話」の「沼矛」に	南あわじ市

			由来するといわれる。また上空から見た島の姿が勾玉の形をしていることや「立神岩」をはじめとする巨大な奇岩が島の周囲を取り囲んでいることが伝承を生んだものと考えられる。	

（※１）文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

（※２）指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

（※３）各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

（※４）ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

1 中川原銅鐸

2 日光寺銅鐸

3 銅鐸出土地 中の御堂

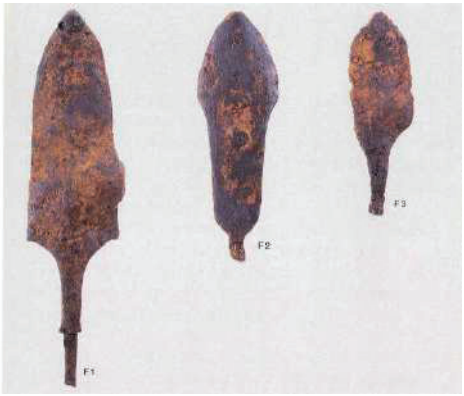
4 松帆銅鐸

5 慶野銅鐸

6 古津路銅剣

7 五斗長垣内遺跡

8 塩壺西遺跡



9 舟木遺跡

7 五斗長垣内遺跡出土品

10 二ツ石戎ノ前遺跡出土品

11 下内膳遺跡

12 沖ノ島古墳群

沖ノ島古墳の棒状石製品

13 石の寝屋古墳群

14 岡の谷１号墳

15 畑田遺跡の棒状石製品

16 貴船神社遺跡

17 引野遺跡

18 旧城内遺跡

19 木戸原遺跡の韓式系土器

20 コヤダニ古墳出土 三角縁神獣鏡

21 伊弉諾神宮

21 伊弉諾神宮の御神像

22 大和大国魂神社

23 先山千光寺

24 御井の清水

25 明石海峡と松帆の浦

26　紀淡海峡と由良・成ヶ島

27 鳴門海峡とうずしお

28　淡路人形浄瑠璃

29 絵島

30 自凝島(おのころじま)神社

30 国生み神話伝承地（天浮橋）

30 国生み神話伝承地（葦原国）

31 沼島（上立神岩）

※複数ページにわたっても可

（様式２）

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
30	古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」 ～古代国家を支えた海人の営み～

（１）将来像（ビジョン）

淡路島は日本遺産として認定された文化・伝統を語るストーリーにまつわる文化財を有するほか、古代海人の時代から古事記の冒頭に飾られた歴史に培われた豊かな文化、食をはじめ、鳴門の渦潮や沼島など日本遺産文化財をはじめとする、美しい自然や温泉に恵まれ、主に京阪神エリアから交通至便な観光地として知られてきた。課題として、島内での宿泊率が 9.6%、日帰り及び通過型観光地である。一方、大阪・関西万博、大阪 IR 開業、神戸空港国際化等、近隣地域の状況は激変していく。それを機に、首都圏やインバウンドなどの遠隔地からの訪問客を呼び込む絶好の機会を迎える。

これらの背景を踏まえ、ひと、もの、文化、食等、淡路島に関わる多様な個性を育み、魅力としてさらに高めていくとともに、淡路島で住む人々の豊かな暮らしの持続に繋げなければならない。コロナ渦終息により、人々の行動制限がなくなった昨今、「知られる観光地」から「選ばれる観光地」への転換をめざす。

① 島の本物の魅力を体感できる島に
島民の誰もが一度は耳にしたことがある「国生み神話」。日本遺産ストーリーのタイトルにある国生みと淡路島の海人の活躍の痕跡をみることで、これまで知られなかった島ならではの歴史文化の重要性や特徴が明らかになってくる。その背景をふるさと教育や地域学習等に取り入れ、地域への誇りと愛着を持つ住民の増加を図り、その人々が主体となった取組を通して、日々の暮らしの中で脈々と受け継がれている伝統文化を継承する。また、伝統文化を生かしたイベント等の活動を活性化し、コミュニティの再生や地域活性化を図ることで、地域と人々が繋がりを持ち続け、その地域に住み続けたいと思う人が増加する。

② 国内外の人が多く行きかう島に
来訪者が日本遺産ストーリーを構成する文化財（国生み神話ゆかりの伊弉諾神宮や先山千光寺、松帆銅鐸などの青銅器、五斗長垣内遺跡の鉄器生産、淡路人形浄瑠璃など）を通して「国生みの島」の歴史文化を体感することと、現在の食や文化、伝統産業を現地で体験することにより、古代からの歴史が今も島にも引き継がれていることを体感し、淡路島ファンとなり、ふるさと納税やクラウドファンディング等を活用した自主財源の確保に繋がるとともに、風土や人々との交流の機会を創出することで何度でも来訪したくなる地域づくりが図られる。

③ 持続可能な島に
事業者においては、島としての豊かな自然や景観、「御食国」の歴史文化に裏打ちされた四季折々に楽しめる美味しい食、「国生みの島」としての歴史文化を体感できる日本遺産の構成文化財などの地域資源を活かし、島内居住者の生活や産業を垣間見る、人々の生活に密着したコテンツを造成、収益化し持続可能な観光商品や旅行商品を開発す

ることで、滞在時間の増加が見込まれ、それに伴う観光施設・宿泊施設の需要や消費に繋がり、収益が増加する。

（２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ａ：日本遺産のストーリーを体験した来訪者の数

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	12,773	11,310	10,328（2025.1 末現在）			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	12,440	12,805	13,370	13,935	14,500	15,065

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	淡路島日本遺産を紹介する洲本市立淡路文化史料館、南あわじ市滝川記念美術館及び淡路市北淡民俗資料館の入館者数。 目標値は 2023 年の値を基準とし毎年 5%増を見込。

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ｂ：日本遺産関連コンテンツについてより理解・関心を深めた人数

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	798	1,449	134			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	138	142	146	150	154	158

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連施設において、銅鏡・銅鐸・銅剣づくり体験、鍛冶体験、観光協会発売の着地型体験コンテンツを行った人数。 目標値は 2024 年の値の平均を基準とし毎年 3%増を見込。 2024 年度以降ひょうご歴史文化フォーラムについては、開催未定のため、除いた数値を基準とする。

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－Ａ：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	81.3	82.5	81.5(推計)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	87.4	89.9	92.4	94.8	97.3	98.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	淡路島日本遺産委員会が島内全戸に配布するタブロイド紙にＱＲコードを掲載しアンケート調査へ誘導・実施する。 目標値は 2023 年度の値を基準とし毎年 3%増を見込。(最終目標 98%)					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－Ａ：日本遺産スマホＲＰＧアプリへの課金額						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	243,170	136,938	131,961 (2025.1 末)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	145,000	149,000	153,000	157,000	161,000	165,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2019 年度及び 2022 年度にリリースした淡路島日本遺産スマホＲＰＧの課金額。 目標値は 2023 年度の実績の毎年 3%増を見込。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－Ａ：公開活用されている（入場や見学等ができる）構成文化財の割合						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	22	22	22			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	22	22	22	22	22	22

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財の状況を詳細に把握する。 目標値は 2024 年度を基準とし現状維持を図る。

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－Ａ：淡路地域の観光入込客数						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	12,815 千人	13,310 千人	12,858 人(推計)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	14,500 千人	15,000 千人	15,500 千人	16,000 千人	16,500 千人	17,000 千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	兵庫県観光客動態調査における観光入込客数。 目標値は毎年 500 千人増を見込み					

（３）地域活性化のための取組の概要

１　普及啓発・ふるさと教育

次世代を担う若者や地域の住民が、ふるさとへの誇りや愛着を醸成し、日本遺産の取組を通じたまちづくりや地域の活性化に繋げていくため、小中学生へのふるさと教育や幅広い年代層への体験学習・イベント等を開催する。

県、島内３市、(一財) 淡路島くにうみ協会では、淡路島の歴史文化や日本遺産への理解を深める講演会など開催し、地域の文化財の価値を再発見し、その価値の共有を図るとともに、各市教育委員会では、ふるさと学習副読本を活用した日本遺産の学習や日本遺産に関連する副教材を小中学生や未就学児に配布し、日本遺産を学ぶ機会を創出・継続する。また、県では地元高校生を対象とした出前講座を実施する。

ストーリーや構成文化財の魅力、日本遺産関連の取組等への理解を深めるため、島内新聞折込、飲食店・観光施に淡路島日本遺産を紹介する記事掲載(島内情報誌)の配布、専門家による現地研修などを行い、持続的なプレーヤーやサポーターの発掘・確保に繋げていく。

２　ストーリー・構成文化財の魅力向上と体感・体験コンテンツの造成等利活用

淡路島日本遺産のストーリー及び構成文化財などを活用して、事業者と連携し体験コンテンツの造成や造成と磨き上げを行い、何度も訪れたくなる魅力的な観光地づくりを行う。さらに、体験コンテンツとして活用が難しい構成文化財についても、映像(AR、VR、ドローン)等の活用や RPG、漫画ワールドカップ等イベントと絡めたわかりやすい紹介と情報発信を行う。

３　観光事業の促進

ＤＭＯ(淡路島観光協会・ひょうご観光本部・関西観光本部・せとうＤＭＯ・神戸観光局等)、自治体(兵庫県・徳島県・神戸市等)、民間事業者(関西エアポート・ＪＡＬ・ＡＮＡ等航空会社)と連携して観光プロモーション、首都圏やインバウントを対象とした FAM トリップを行い、周遊促進や着地型体験コンテンツの旅行商品への組み込み等を働きかけていく。

観光協会と連携して造成した体験コンテンツを観光協会のホームページに掲載し販売、多言語化にも取り組んでいく。さらに、かつて御食国と栄え、先人の知恵と工夫で多数ブランド化食と匠の技の魅力も含め国内外からの誘客を図っていく。

2025 年 4 月からの大阪・関西万博にあわせて、開催される AWAJI 島博に協力して、体験コンテンツの提供するほか、周遊・滞在促進策の AWAJI 島観光パスポートや淡路島ウェブスタンプラリーにも積極的に協力して、構成文化材の誘客促進に取り組む。

４　情報発信

国生みのみならず、海人に焦点をあてて、深く掘り下げた特集記事などを公式ウェブサイトやタブロイド紙に掲載し発信するほか、発信力のあるライターなどと連携し広く情報発信していく。

海人の調査研究は引き続き行い、ストーリーの進化を図る。

（４）実施体制

淡路島日本遺産委員会（企画・実施・進捗管理）

会　長：淡路島市長会会長（洲本市長）　※プロジェクトリーダー

副会長：南あわじ市長

監査役：淡路市長

幹事長：一般社団法人淡路青年会議所

事務局：一般社団法人淡路島観光協会

（伊弉諾神宮、淡路人形座、ジョイポート淡路島等など主な構成文化財関係者は淡路島観光協会の会員として参画）

淡路島全体の観光を推進・調整する組織である淡路島観光戦略会議（※）と連携し、歴史文化と観光が一体の事業を展開する。

※淡路島観光戦略会議
兵庫県淡路県民局長・島内３市長・㈠社 淡路島観光協会長で構成
会長：兵庫県淡路県民局長

【構成団体】

淡路市（まちづくり政策課・商工観光課・教育委委員会社会教育課）
洲本市（企画課・商工観光課・教育委員会生涯学習課）
南あわじ市（ふるさと創生課・商工観光課・教育委員会社会教育課）
兵庫県淡路県民局（県民躍動室）
一般財団法人淡路島くにうみ協会
一般社団法人淡路島観光協会（地域連携ＤＭＯ）
一般社団法人淡路青年会議所
淡路広域行政事務組合

【オブザーバー】

高木俊光(淡路島観光協会 CMO)
兵庫県教育委員会（文化財課）
淡路信用金庫

（役割）

・住民への普及啓発・：各市商工観光課、企画担当課、教育委員会担当課
・住民や団体との連携
・広報・ＰＲ・普及啓発：（一財）淡路島くにうみ協会、（一社）淡路島観光協会、（一社）淡路青年会議所
・ガイド養成：各市商工観光課、教育委員会担当課
・サポーターの運営：（一社）淡路島観光協会
・観光事業化：（一社）淡路島観光協会、各市商工観光課
・ふるさと学習：各市教育委員会担当課
・海人の調査研究：各市教育委員会担当課、兵庫県教育委員会
・予算・事業の調整：兵庫県淡路県民局、淡路広域行政事務組合
・金融支援：淡路信用金庫

（連携する民間団体等）

・構成文化財所在地のボランティアガイド（沼島等）

・構成文化財の保存・活用を図る地域住民による団体（五斗長垣内遺跡等）
・体験コンテンツの造成・磨き上げ(先山千光寺・沼島おのころクルーズ・シマトワークス・スマイルリボン)
・産経新聞社・クラブツーリズム・阪急交通社・JAL
・ひるねこ
・株式会社パソナグループ

［人材育成・確保の方針］

島内各地において歴史文化や観光に深く関わり、また知見が豊富な方、或いは地域おこし協力隊等強い意欲のある方とガイドやサポーター等地域プレーヤーとの連携を深め、その裾野を広げる。

次世代を担う子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち、将来にわたって日本遺産の取組に参画していくため、ふるさと教育を継続して実施する。特に、日本遺産を紹介する「ふるさと学習副読本」の活用、日本遺産に関連する副教材の配布、高校生への出前授業や新任教職員への日本遺産の研修を全島的に行い、幼少期から「国生みの島・はじまりの島」について学ぶことができるようにする。

実際に体験コンテンツを体験することで、日本遺産に関連する取組への関心や参加意欲を高め、ガイドやサポーター等プレーヤーのスキルアップを図る。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

淡路島日本遺産委員会は、島内３市及び兵庫県淡路県民局が構成員の中核として参画。また、島内唯一の観光団体で、島内全域をマネジメントする地域連携ＤＭＯの（一社）淡路島観光協会とともにプロジェクトリーダーとして島全体にわたる広域的な事業展開にイニシアチブをとっている。観光協会は委員会事務局を担うとともに「淡路島総合観光戦略」に基づいて県・３市等とともに、歴史文化と観光を融合した事業を展開する。淡路島の地域振興・地域活性化を支援する（一財）淡路島くにうみ協会等も参画するなど島の官民が一体となった組織となっている。

日本遺産のストーリーを題材としたスマホＲＰＧは、課金部分が収益となり委員会の自己財源に充当していく。

民間事業者連携して、構成文化財やストーリーの魅力を体感できる体験コンテンツを造成・磨き上げを行い、事業者の収益増加に取り組んでいく。

ガイドの資質向上、旅行エイジェントとのネットワーク・構築拡大、観光客の周遊滞在促進への取組に積極的に参画していく。

また、淡路島日本遺産を推進していくための体制、人財、財源の確保に努めていくが、 当分の間は、主に兵庫県や島内３市等から委員会への負担金を活用し持続的に事業を展開する。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の調査研究を進め、ストーリーの深化を図るとともに、構成文化財の魅力を体験できるようなコンテンツを造成して、歴史文化のバックストーリーを明確にし、ストーリーを伝える人財を育成し、訪問者の満足度を高めていく。さらに、訪問者が快適に構成文化財等を訪問できるような環境整備(多言語・二次元コードの活用・清掃など)を行っていく。

普及啓発事業やふるさと教育により、地域住民や子どもたちの誇りと愛着の醸成や構成

文化財の保存に対する理解を深め、清掃や見守り、交流の場としての利活用、地域の祭りや伝統芸能の継承、景観保護等、地域全体で構成文化財を支え保存する活動に繋げる。

（７）地域活性化のために行う事業

（７）－１　組織整備

（事業番号１－Ａ）

事業名	事業の全体統括を行う組織の整備
概要	計画の円滑な実施のため、関係者間の調整を行う組織の整備

	取組名	取組内容	実施主体
①	淡路島日本遺産委員会の運営	島内３市（教育委員会、観光部局、企画部局）のほか兵庫県淡路県民局（観光部局）、（一財）淡路島くにうみ協会、（一社）淡路島観光協会（地域連携 DMO）、（一社）淡路青年会議所及び淡路広域行政事務組合を構成員とし、また淡路信用金庫と兵庫県教育委員会をオブザーバーとする淡路島日本遺産委員会を運営する	淡路島日本遺産委員会
②	淡路島日本遺産委員会総会の開催	淡路島日本遺産委員会構成員の役割及び財源や体制を明確にするため、構成員の代表による総会を開催する。	淡路島日本遺産委員会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	構成員のうち行政組織以外の参画者数	4 団体
2023		4 団体
2024		4 団体
2025	構成員のうち行政組織以外の参画者数	4 団体
2026	構成員のうち行政組織以外の参画者数	4 団体
2027	構成員のうち行政組織以外の参画者数	4 団体
2028	構成員のうち行政組織以外の参画者数	4 団体
2029	構成員のうち行政組織以外の参画者数	4 団体
2030	構成員のうち行政組織以外の参画者数	4 団体

事業費	2025 年度：10 千円　　2026 年度：10 千円　　2027 年度：10 千円
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。
事業費	2028 年度：10 円　　2029 年度：10 円　　2030 年度：10 円
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。

（事業番号１－Ｂ）

事業名	計画に基づく事業の企画・実施を行う組織の整備
概要	計画に基づく事業を中心となって企画･実施する役割を担う組織の整備

	取組名	取組内容	実施主体
	淡路島日本遺産委員会幹事会の設置	事業の具体的な企画を行い実施する組織として委員会の中に幹事会を設置し定期的に開催する。	淡路島日本遺産委員会
	プロジェクトリーダーの決定	委員会の長である淡路島市長会長及び観光５者会議（2022 年度設置）の長である兵庫県淡路県民局長をプロジェクトリーダーに決定し事業を推進する。	淡路島日本遺産委員会
	委員会事務局の設置	委員会事務局を（一社）淡路島観光協会（地域連携 DMO）内に設け、観光と一体となった事業を展開する。	淡路島日本遺産委員会
	サポーターの組織化	ボランティアガイドや日本遺産に関心を持つ者･団体（サポーター）を組織化したサポータークラブを運営する。	淡路島日本遺産委員会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	淡路島日本遺産委員会が企画・実施した事業数	10 事業
2023		10 事業
2024		10 事業
2025	淡路島日本遺産委員会が企画・実施した事業数	10 事業
2026	淡路島日本遺産委員会が企画・実施した事業数	10 事業
2027	淡路島日本遺産委員会が企画・実施した事業数	10 事業
2028	淡路島日本遺産委員会が企画・実施した事業数	10 事業
2029	淡路島日本遺産委員会が企画・実施した事業数	10 事業
2030	淡路島日本遺産委員会が企画・実施した事業数	10 事業

事業費	2025 年度：7,000 千円　2026 年度：6,500 千円　2027 年度：6,500 千円
継続に向けた事業設計	スマホ RPG 課金収入利益、自治体の支援を得て事業を継続する。
事業費	2028 年度：6,500 千円　2029 年度：6,500 千円　2030 年度：6,500 千円
継続に向けた事業設計	スマホ RPG 課金収入利益、自治体の支援を得て事業を継続する。

（７）－２　戦略立案

（事業番号２－Ａ）

事業名	ＰＤＣＡサイクルをまわす仕組みの整備
概要	目標値を設定し委員会において計測や共有を行うとともに、総会や観光５者会議等において事業効果を検証し、次の取組へ向け必要な改善を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	各事業や計画の目標値について委員会で共有	計画案の策定、事業の実施及びその状況を把握するため、委員会を定期的に開催し情報共有を行う。	淡路島日本遺産委員会
②	課題の特定や必要な対応について協議	計画の実施にあたり生じる課題の特定や対応を委員会において協議するとともに、プロジェクトリーダーや日本遺産プロデューサーから必要な助言を受ける。	淡路島日本遺産委員会
③	事業効果の検証	概ね１年間の事業について、総会や観光５者会議等が効果検証を行い、課題の改善に向けた提言を行う。	淡路島日本遺産委員会
④	課題解決に向けた事業実施	検証結果や助言を基に委員会で計画を精査し、課題解決に向けた具体的な改善策を策定し事業実施を行う。	淡路島日本遺産委員会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	委員会の開催回数	4 回
2023		3 回
2024		2 回
2025	委員会の開催回数	4 回
2026	委員会の開催回数	4 回
2027	委員会の開催回数	4 回
2028	委員会の開催回数	4 回
2029	委員会の開催回数	4 回
2030	委員会の開催回数	4 回

事業費	2025 年度：10 千円　　2026 年度：10 千円　　2027 年度：10 千円
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。
事業費	2028 年度：10 千円　　2029 年度：10 千円　　2030 年度：10 千円
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。

（７）－３　人材育成

（事業番号３－Ａ）日本遺産を活用する人材・事業者の育成・確保

事業名	日本遺産を活用する人材・事業者の育成・確保
概要	日本遺産を活用した事業等に取り組む人材・事業者を育成

	取組名	取組内容	実施主体
①	サポータークラブの運営	サポーター向けに構成文化財やストーリーに関する、研修会を行い、その魅力発信を自ら企画・運営しうる人材育成を図る。	淡路島日本遺産委員会
②	ガイドの育成	日本遺産の構成文化財やストーリーを紹介するボランティアガイドにスキルアップ研修を実施する。構成文化財の	島内３市・淡路島日本遺産委員会
③	日本遺産を活用した事業のためのワークショップの実施	日本遺産を活用した事業を展開するため民間事業者向けのワークショップを開催する。	淡路島日本遺産委員会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産を活用する人材・事業者の数	39
2023		47
2024		53
2025	日本遺産を活用する人材・事業者の数	58
2026	日本遺産を活用する人材・事業者の数	63
2027	日本遺産を活用する人材・事業者の数	68
2028	日本遺産を活用する人材・事業者の数	73
2029	日本遺産を活用する人材・事業者の数	78
2030	日本遺産を活用する人材・事業者の数	83

事業費	2025 年度：100 千円　　2026 年度：100 千円　　2027 年度：100 千円
継続に向けた事業設計	ガイドの活動により一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する。
事業費	2028 年度：100 千円　　2029 年度：100 千円　　2030 年度：100 千円
継続に向けた事業設計	ガイドの活動により一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する

（７）－４　整備

（事業番号４－Ａ）

事業名	日本遺産のストーリーに関する施設設備の整備
概要	ストーリーの体験に必要な解説等の充実のための施設設備の整備

	取組名	取組内容	実施主体
①	拠点施設の日本遺産コーナーの整備・充実	洲本市立淡路文化史料館や南あわじ市滝川記念美術館等の日本遺産コーナーにおいて、パネル展示等による解説の整備やワークショップ・体験イベントの開催など取組の充実を図る。	島内３市
②	ガイドムービーの活用（解説板へのＱＲコード貼付）	ガイドムービーを制作した構成文化財の解説板にＱＲコードを貼付し YouTube で解説を視聴可能とする。	淡路島日本遺産委員会
	モデルルートの再検討	日本遺産認定後の調査研究結果や新たな観光コンテンツの造成等を踏まえたモデルルートの再検討を行う。	
④	日本遺産スマホＲＰＧの開発・配信	日本遺産のストーリーをわかりやすく伝えるスマホＲＰＧを開発し配信する。 運用経費：330,000 円想定 課金収入：150,000～200,000 円想定 利用者数：年間 100,000 ユーザー想定	淡路島日本遺産委員会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	スマホ RPG に対する評価	－
2023		－
2024		4.2
2025	スマホ RPG の新規ユーザー数	7,389
2026	スマホ RPG の新規ユーザー数	7,598
2027	スマホ RPG の新規ユーザー数	7,807
2028	スマホ RPG の新規ユーザー数	8,016
2029	スマホ RPG の新規ユーザー数	8,225
2030	スマホ RPG の新規ユーザー数	8,434

事業費	2025 年度：1,000 千円　2026 年度：1,000 千円　2027 年度：1,000 千円
継続に向けた事業設計	スマホＲＰＧに課金システムを導入することで一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する。 2024 年の新規ユーザー数の 3%増を見込む
事業費	2028 年度：1,000 千円　2029 年度：1,000 千円　2030 年度：1,000 千円
継続に向けた事業設計	スマホＲＰＧに課金システムを導入することで一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する。 2024 年の新規ユーザー数の 3%増を見込む

（７）－５　観光事業化

（事業番号５－Ａ）

事業名	体験コンテンツの販売
概要	日本遺産のストーリーの舞台のＶＲ体験や銅鏡づくり体験の販売

	取組名	取組内容	実施主体
①	銅鐸・銅鏡づくり体験	日本遺産の構成文化財である銅鐸、三角縁神獣鏡づくりを体験する。幅広い年代の参加者に向けて鋳造体験を実施することで、青銅から鉄の時代に移り変わった歴史的な背景、弥生時代に青銅器を作っていた工程について学習し、淡路島日本遺産への理解を深めてもらう。	洲本市・南あわじ市
②	弥生時代をＶＲ体験	日本遺産の構成文化財である松帆銅鐸が使われていた弥生時代の暮らしをＶＲ映像で体験することで、松帆銅鐸の歴史的な価値を理解してもらう。	南あわじ市

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	各体験の売上	324,600 円
2023		354,800 円
2024		344,800 円(2024.1 末)
2025	各体験の売上	365,400 円
2026	各体験の売上	366,000 円
2027	各体験の売上	376,600 円
2028	各体験の売上	387,200 円
2029	各体験の売上	397,800 円
2030	各体験の売上	408,400 円

事業費	2025 年度：400 千円　2026 年度：400 千円　2027 年度：４００千円
継続に向けた事業設計	体験コンテンツの利用により一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する。
事業費	2028 年度 400 千円　　2029 年度：400 千円　　2030 年度：400 千円
継続に向けた事業設計	体験コンテンツの利用により一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する。

（７）－６　普及啓発

（事業番号６－Ａ）

事業名	地域住民への普及啓発
概要	地域住民が日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるよう継続的な普及啓発の実施。

	取組名	取組内容	実施主体
①	シンポジウムやワークショップの開催	兵庫県立歴史博物館と連携した海人の調査研究に係るシンポジウムや日本遺産に関する市民向けの講座・ワークショップを開催する。	淡路島日本遺産委員会・島内３市
②	来訪者と地元住民が交流するイベントの開催	五斗長垣内まつりや渦潮まつり等構成文化財を活用した地元住民と来訪者が交流するイベントを開催する。	各ｲﾍﾞﾝﾄ実行委員会・淡路島観光協会
③	全国くにうみ漫画ワールドカップの開催	パソナグループと共同で日本遺産のストーリーをアニメ等によりわかりやすく発信する「全国くにうみ漫画ワールドカップ」を開催する。	パソナグループ・淡路島日本遺産委員会
④	県・市の広報誌を活用したＰＲ	県・市が毎月発行する広報誌を活用し、日本遺産のストーリーや構成文化財を紹介する。	県・島内３市
⑤	淡路島くにうみ講座の開催	島内外の方々を対象に、国生み神話など淡路島の歴史・文化等に関する講座を開催する。	淡路島くにうみ協会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	淡路島日本遺産を誇りに思う住民の割合	96.7%
2023		98.5%
2024		集計中
2025	淡路島日本遺産を誇りに思う住民の割合	98.7%
2026	淡路島日本遺産を誇りに思う住民の割合	98.7%
2027	淡路島日本遺産を誇りに思う住民の割合	98.7%
2028	淡路島日本遺産を誇りに思う住民の割合	98.7%
2029	淡路島日本遺産を誇りに思う住民の割合	98.7%
2030	淡路島日本遺産を誇りに思う住民の割合	98.7%

事業費	2025 年度：1,300 千円　2026 年度：1,300 千円　2027 年度：1,300 千円
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。
事業費	2028 年度：1,300 千円　2029 年度：1,300 千円　2030 年度：1,300 千円
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。

（７）－７　情報編集・発信

（事業番号７－Ａ）

事業名	ＨＰ等による情報発信
概要	日本遺産のストーリーや構成文化財に関する情報及び来訪者が必要とする情報についてＨＰ等を整備し情報発信を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	公式ウェブサイト及びＳＮＳによる情報発信	淡路島日本遺産公式ウェブサイトでは、現在ストーリーや構成文化財の紹介、モデルルートを掲載している。今後は各市が開催している体験コンテンツの案内や、オンラインイベントの情報を一元的に発信するページや、ガイド団体の情報掲載及び観光協会ＨＰと相互リンク等を行い、観光客への導線を強化する。 SNS でも公式ウェブサイトと連動し、研修、イベント情報、取組等についてこまめに掲載していく。	淡路島日本遺産委員会
②	ガイドムービーの制作	構成文化財に関するガイドムービーを制作し、YouTube による配信や現地案内板に誘導用の QR コードを貼付することで情報発信する。	淡路島日本遺産委員会
③	島内報の発刊	淡路島日本遺産についてのタブロイド紙を作成し、新聞折込で島内全戸へ配布し島民に活動内容を周知する。またアンケートを実施し、島民の日本遺産への認知度、興味・関心について調査する。	淡路島日本遺産委員会
④	マスメディアを活用した情報発信	テレビ、ラジオ、雑誌等を活用し、日本遺産のストーリーや構成文化財を紹介。島外からの誘客促進・認知度向上を目指す。	淡路島日本遺産委員会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	淡路島日本遺産公式ウェブサイトＰＶ数	151,964
2023		114,332
2024		97,253(2025.1 末)
2025	淡路島日本遺産公式ウェブサイトＰＶ数	120,049
2026	淡路島日本遺産公式ウェブサイトＰＶ数	125,765
2027	淡路島日本遺産公式ウェブサイトＰＶ数	137,198
2028	淡路島日本遺産公式ウェブサイトＰＶ数	142,915
2029	淡路島日本遺産公式ウェブサイトＰＶ数	148,632
2030	淡路島日本遺産公式ウェブサイトＰＶ数	154,348

事業費	2025 年度：1,000 千円　2026 年度：1,000 千円　2027 年度：1,000 千円

継続に向けた事業設計	公式ウェブサイトは主に事務局（淡路島観光協会）が観光と連携した運営及び情報発信を行う。 島内居住者情報発信については、継続する。 マスメディアは雑誌への記事掲載を基本とし、テレビやラジオの活用も図る。
事業費	2028 年度：1,000 千円　2029 年度：1,000 千円　2030 年度：1,000 千円
継続に向けた事業設計	公式ウェブサイトは主に事務局（淡路島観光協会）が観光と連携した運営及び情報発信を行う。 島内居住者情報発信については、継続する。 マスメディアは雑誌への記事掲載を基本とし、テレビやラジオの活用も図る。